

普及活動情勢報告

情勢報告（平成30年3月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

イチゴ生産者が技術向上にむけ交流会（合同現地検討会の開催）



積み重ねたノウハウを説明するベテラン農家

3月7日、四万十町窪川、大正、十和地区のイチゴ生産者5名が集まり、窪川、大正地区で現地検討会を開催しました。

新品種の試作状況や炭酸ガスの局所施用について情報交換され、普及所からはイチゴハウスの炭酸ガス濃度やスリップスの天敵試験の経過について報告しました。

JA四万十とJA高知はた大正支所の合同で行う現地検討会も5回目となり、生産者から草勢や病害虫の発生に対する厳しい指摘があるなど本音の技術交流会になってきました。

普及所では、この交流会が実際に農業経営の発展に結びつくよう援助するとともに、交流の輪をもっと広げていきます。

新規就農者の育成に向けて！～水稻栽培講習会「初歩の初歩（育苗～田植え）」を開催～



播種作業の確認

3月10日、退職後水稻栽培を始める方や、栽培を初めて間もない方などを対象にJA四万十本所で、水稻栽培講習会を開催し13名が参加しました。

講習会では、播種から田植えまでの一連の作業のDVD視聴や箱処理、除草剤などの効果的な使い方を講習した後、現地で播種や育苗管理における作業のポイントを指導しました。

参加者からは「苗はどれくらいでできるのか」、「種を播く量はどれくらいが良いか」など積極的に質問する姿が見られました。

普及所は、今後も新規就農者の育成に向け、退職者等に声をかけ、就農できるよう栽培技術など支援していきます。

30年度作付けに向けて～JA高知はたシシトウ栽培講習会を開催～



十和支所での栽培講習会

2月27日、3月19日、JA高知はたシシトウ栽培講習会が開催され、大正地区11名、十和地区37名の生産者が参加しました。

JA高知はた北幡営農センターから、29年度の出荷実績やほ場準備、定植後の管理について指導がありました。普及所は、秋以降発生が多い黒枯病対策を中心に、定植直後の水管理等や、栽培履歴の記帳、農薬の適正使用について指導しました。

生産者からは、効率的な散布方法や、病害診断、農薬の特徴等の質問がありました。

普及所では、今後もJA高知はた北幡営農センターと共に、シシトウの産地維持に取り組んでいきます。

農家の経営発展に向けて ～JA四万十記帳研修会総会～



研修会の様子

3月20日、JA四万十にて記帳研修会の総会が開催され、23名が参加しました。

総会後の研修会では、外部講師を招き、農地中間管理事業や農地の相続及び譲渡、収入保険制度について研修しました。

普及所からは品目別の経営収支について説明しました。特に、相続時の手続きや税金についての認識が深まりました。

H30年度には新たに3名の会員が増え、継続して個別面談による経営分析を実施していくこととなりました。今後も、JAと普及所が一体となり、農家の経営意識の向上に取り組んでいきます。

四万十町の農業の維持・発展を目指して ～高南地区農業改良普及推進協議会～



協議会の様子

3月2日、第2回高南地区農業改良普及推進協議会を開催し、農家代表や役場及びJAの関係機関職員など24名が出席しました。

協議会では、本年度に行った環境制御技術等の活動実績や、GAPの推進、平成30年度普及指導計画の策定方針、事業概要等を報告しました。

出席者からは、ショウガの労働力マッチング支援事業への評価、ニラの調整作業への意見、集落営農による農地維持への期待、はちきん農業大学校への意見等がありました。

普及所は、四万十町の農業の維持・発展に向けて、関係機関と連携して普及指導活動に取り組んでいきます。

新たな農地保全品目の導入に向けて ～四万十農産の栗新植～



栗の植え付け作業

3月14日、中山間農業複合経営拠点である（一社）四万十農産が栗の新植を開始しました。

（一社）四万十農産では、労力があまりかからず、農地を保全できる品目として栗に着目し、加工業者と連携して産地化に取り組む計画となっています。本年度は60aの新植を行うことになり、普及所の指導の下、植え付けを行いました。

普及所としては、これからも栽培技術支援を継続し、新たな栗産地となるよう取り組んでいきます。